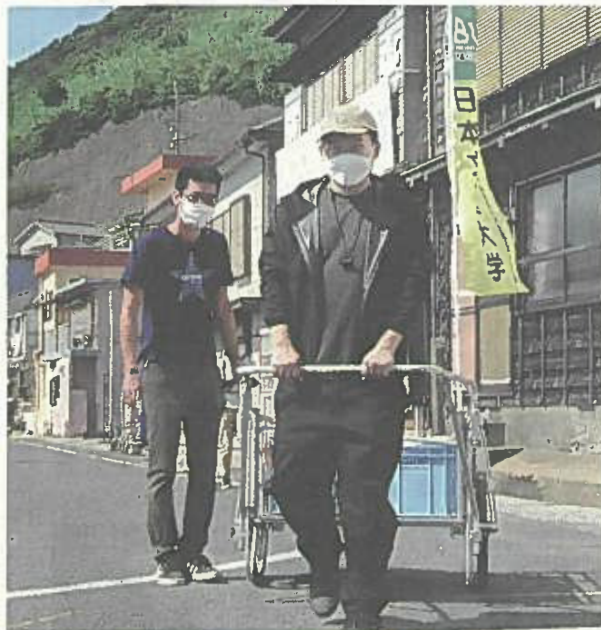


大分

大分支局 〒870-0034 大分市都町 1-1-23 13階
 電話097・532・4131 FAX532・4134
 oita@mainichi.co.jp

宇佐通信部 0978・32・2333
 別府通信部 0977・23・3361
 佐伯通信部 0972・20・4472

日本文理大生 リヤカーで食料品販売



食料品を載せたリヤカーを引く日本文理大の学生

日本文理大(大分市)の学生らが25日、同市佐賀関地区で「楽・楽マルシェ」と銘打って、リヤカーで食料品などを移動販売した。高齢者が進む地区で買い物に不便な高齢者を手助けし、住民が大学生と交流することでコミュニティを活性化させようが中心に実施した。

「助かる」と声をかけながら野菜ななどを買っていった。日本文理大工学部の吉村充功教授(都市計画)の研究室と佐賀関地区で地域活性化に取り組むNPO法人「さのせき彩・彩カフエ」が中心に実施した。

大分市佐賀関地区 高齢者手助け

「楽・楽マルシェ」



佐賀関地区の住民らに食料品の値段を説明する日本文理大の学生(左)

コミュニティ活性化狙う

マルシェ自体は2012年7月から毎月1回開催されているが、当初は場所を固定し、

住民らに買い物に来てもらっていた。だが高齢化で利用者が減少し、この日から移動販売方式に切り替えた。

25日は学生ら7人が参加。リヤカーにはサツマイモやカボス、学食たちが作った焼き鳥などが積み重ねられ、広場で「移動販売です」と声を上げると、住民たちが集まった。

学生らはリヤカーを引きながら、約2時間かけて約1キロの道のりを歩いた。

参加した日本文理大3年の沢井恵介さん(21)は「場所が固定だった時は素通りする人が多かったけど、移動販売だと寄ってくれた。地域が活性化するきっかけになれば」と話した。吉村教授は学生には地域が抱える課題を肌で感じてもらえる。コミュニティの維持につながってくれば」と期待を込めた。

【石井尚】